

地域の観光事業再生のための 組織化とビジョン策定支援

支援の
ポイント

- ①組織の運営課題を整理して段階的に専門家を活用
- ②組織運営のスムーズな立ち上げのために補助事業をピンポイント活用
- ③コーチングに徹して事業者の主体性を引き出し、進捗を随時確認
- ④地域の関連機関を巻き込んで活性化の一大プロジェクトとして情報発信

支援の経緯

支援企業は、山口県長門市仙崎でとらふく養殖、水産物加工及び鮮魚仲卸業を営む企業である。仙崎はイカやアジなどをはじめとした近海水産物及び仙崎かまぼこなど水産加工品が名産であり、海洋観光資源も豊富な地区である。

しかし近年では観光客も減少し、これといった活性化の手立てがない状態であり、観光地・仙崎の活性化が強く望まれている。平成24年秋には仙崎魚市場がリニューアルオープンの予定であるが、代表者はこれを契機に周辺観光施設とリンクした水産物直売施設の開設・運用を地元自治体へ提案していたが、一向に動きがなかったため、それでは自分たちが中心となって拠点づくりを行おうと有志を集めて立ち上がった。そこで代表者は4月上旬、仙崎水産物協同組合の理事として付き合いのある山口県中小企業団体中央会の主任である小倉也寸志氏に組織としての地域活性化をリードするにはどうしたらよいか相談を持ちかけた。

支援のプロセス

代表者と面談した小倉主任は、既に存在する仙崎水産物協同組合での運営も考えたが、同協同組合は組合員数が多く、今回のような地域活性化を目的とした活動を行う組織としては、小回りが利かず意思決定や情報伝達・共有化等の面からみて不利と考え、同組合の若手有志と地元若手農業者を含めた新しい事業協同組合を組織することを提案し、代表者や有志もその考えに賛同し新しい組織を設立することが決定された。

こうして新しい組合を組織化することは決まったものの、こういった形で事業運営を行うのかを決めることが大きな課題であった。小倉主任は組織のビジョン策定を支援するため、ネットワークアドバイザーである原田眞樹氏に本件をコーディネートしていただくよう依頼した。

原田NWアドバイザーは代表者の想いや仙崎の現状をヒアリングし、ビジョン策定を行う際のグランドデザイン（青写真）を作成することが最優先課題と考え支援に取り組むこととなった。

このようにして中央会による協同組合の設立支援、新しい協同組合のビジョン策定支援が開始されることとなった。



原田NWアドバイザー(右)と小倉主任

原田NWアドバイザーは、今後の事業協同組合のメンバーとなる支援企業代表者をはじめとした地元の若手水産物関係者や農業関係者を集めランドデザインの考え方や基本コンセプト、集客戦略について意見集約を行った。この意見集約をベースに5月に九州から経験豊富な専門家を招き、ランドデザインのたたき台構想の指導を行った。これを元に具体的な施設やイベント等ビジョン策定に必要な素材を整理していった。

並行して中央会の支援により「協同組合仙崎新鮮組」が8月に設立登記され、専門家派遣によって「平成23年度小企業者組成長戦略推進プログラム等支援事業」の申請支援が行われ9月に採択されることとなった。

更に9月からはビジョン策定を行うにあたって、8名からなる組合員のベクトル合わせのためワークショップを数回開催した。これも専門家派遣を活用して行われたが、代表者いわく「このワークショップで組合員が一つになることができ同じ方向を向くことができた」とのことであった。

また、地域活性化要素を含む新事業展開となることから、前述の小企業者組成長戦略推進プログラム等支援事業を活用して、長門市、漁協、JA等を巻き込んだ事業推進委員会を設置し直売施設に関する意見交換が行われていった。複数回の委員会によって「周辺観光施設とリンクした『人に優しい食』の提供拠点としての共同販売施設整備」のビジョンが策定された。

このビジョンは長門市に提出されるとともに、マスコミからも大きな注目を浴びており、今後の展開に大きな期待がもたれている。

5月からは、まだ直売施設は確保されないものの、組合員がそれぞれの産品を直売する「軽トラ市」を開催する計画であり実現に向けたアクションが打ち出されていく。



工事が進む仙崎魚市場。
左側は現在の魚市場

フォローアップ活動

今後は山口県中小企業団体中央会が定期・随時巡回によってフォローアップを行い、事業の節目には原田NWアドバイザーがアドバイスを行う体制が取られている。主なフォローアップ支援は以下のとおりである。

- ①ビジョン実施に向けたパイロット事業の状況把握と実現化方針の調整
- ②長門市が推進している農産物販売パイロット事業との摺り合わせ調整・誘致
- ③農林水産省の「農山漁村活性化支援プロジェクト交付金」等の補助事業も視野に入れた、行政等とのプロジェクトとして位置付けるための根回し等

OJTについて

今回の支援では、小倉主任は中央会の本来業務である協同組合設立運営支援を手掛けたが、合わせて仙崎の周辺観光施設とリンクした直売施設運営のビジョン策定支援を原田NWアドバイザーから指導を受けた。

小倉主任からは「当初は事業計画の作成や申請書の作成など事務的な手続きが多いと思ったが、実際にはコーチングに徹して事業者の主体性を引き出す手法を学ぶことができた。また、事業を実施するにあたって様々な情報の提供、人脈の活用方法等を伝授いただき、地域、関係機関を巻き込んだ素晴らしいコーディネート力を学ぶことができ指導に感謝している」との声をいただいている。



原田アドバイザー(左)を中心に、
小倉主任と組合幹部が事業運営を討議